

アマチュア変光星観測の集成

五味 一明*

日本における変光星の眼視観測はもう6, 70年の歴史があり、大勢の人たちが観測記録を残しています。この仕事は、素人の星を見る者の、宇宙観測の一分野として、宇宙の歴史を記録していくよい仕事であります。写真や光電増幅管式の観測技術が進歩した今日でも、眼視観測を不要という専門家は少ないのです。私たちも、50年以上の年月をこの仕事に打ちこんできました。

ところが今、一般の素人観測者が観測を発表できる場は、自分たちのグループの機関紙と、毎年1回、日本アマチュア天文研究発表大会ぐらいです。そのために、故人の観測が散逸してしまったものがあり、今のうちに集めておかないと永久に行方不明になってしまう恐れもあります。反対に、同じ観測を何箇所にも報告する人があります。これは考えなければならないことでしょう。長い日本の変光星観測の歴史からいって、これらは哀れな状況だと思えます。

以前は状況が違いました。たとえば「天文月報」は大正13年5月から変光星の観測をのせています。第1号は故人になった河西慶彦氏のミラの観測で、つぎはやはり故人の神田清氏のものです。私達の観測はそれ以後1943年まで掲載され、また時折には「日本天文学会要報」にも発表されて、研究資料として広く利用されました。さかのぼって日本の変光星観測史を調べてみますと、故一戸直蔵博士が明治39年から44年までヤーキース天文台・東京天文台で1万2千ほどの観測をしました。これは一部分しか発表されていません。大正8年ごろから神田茂、山本一清両氏が観測を始めたのですが、両先生の観測も天文月報が掲載を始めるまで、一部分のほかにどこに発表されたのかわかりません。プラガー、シュネラー両氏の「変光星の来歴と文献」(1922年)は、1913年以後に観測を発表した書名と期間とを集めています。「天文月報」「京都大学ブレン」等の書名がみえるけれど、今日では入手が困難です。

現在および運去のこういう状況は、研究上の要求を満たしているとはいえません。私達はこの問題を仲間と一緒に考えてきたのですが、これはどうしても、今までに行なわれてきた観測全部を整理してまとめることが一番重要な問題であって、とにかくできるだけ集めてみようという結論になりました。そうしなければ、永い間の眼視観測がなんの意味も持たずに終焉の形になる心配さえ感じます。先輩・古い観測者・今熱心に観測している人

* K. Gomi

達の意見も集めました。学者の方がたからも意見を伺いました。その結果、観測総数・期間の目安や、記録の重要度等を明らかにしたうえで、出版資金の捻出を考えようということになりました。私達オールドボーイが呼びかけ人になって、まず観測記録を集めることから始めたと思うのです。

このことに、本学会の会員であるアマチュア観測者の御協力を是非お願いしたいのです。近いうちに各方面の観測者の方がたに発起人になることをお願いして、観測集録の実現にとりかかりたいと考えております。どうかこの考えに賛成され、批判もされたうえで、力を合わせてくださるようお願いいたします。

オールドボーイズ：木辺成磨・黒岩五郎・下保 茂・五味一明

注：推定観測数は、日本天文学会・東亜天文学会・日本天文研究会に集計されている分だけでも約60万はあります。



◀セレストロン8型(20cm)
各型とも専用付属品完備

12.5cm型 ¥277,000
20cm型 ¥368,000
35cm型 ¥1,818,000

世界の天文家が愛好する セレストロン

● シュミットカセグレン望遠鏡
● シュミットカメラ
● コールドカメラ

《その他、天文関係製品》

- ★ベクバルの星図・星表★フェーレンベルグ写真星図
- ★有名英文専門図書★反射鏡自作用パイレックス円板、工具青板、研磨剤★天文カラーポスター、カラーライドなど多数。
- ▲カタログのご請求は切手300円同封の上、G係にお申込み下さい。

CELESTRON INTERNATIONAL社 日本総代理店

KOYO 株式会社 光洋 〒100 東京都千代田区有楽町1-8-1
日比谷パークビル9階 TEL(03)213-1571